

『ナン・スタディ(ナンⅡ修道女・研究)』とは、75歳から実に106歳までの678人の修道女本人の承諾を得て始まった、アルツハイマー病の解明の疫学研究です。シスターたちは、規則正しい生活を送り、残された記録を提供し、脳機能や記憶力のテストを受け、そして神に召された後の献脳に同意し、「ナン・スタディ」は世界に名だた

る研究になっていきます。1997年の報告では、シスターマリーを紹介しています。彼女は678人の中でも認知機能は優秀な成績で、101・7歳で亡くなる半年前の成績でも異常はありませんでした。しかし、彼女の脳を調べると典型的なアルツハイマー病の脳を示していたのです。すなわちアルツハイマー病に罹患はしていたが、発症には至らなかったことになりました。



石田 和彦

■ 脳神経外科・整形外科
いしだクリニック



☎044-955-0250
麻生区百合丘2-7-1
<http://www.ishida-clinic.or.jp/>

す。この実例より、日々楽しく、明るく、好きなことに積極的に取り組んでいけば、自然と脳は鍛えられ認知症は避けることができるかもしれません。